

# 平成29年度 ふっかちゃん i サポート事業活用状況報告

## 1 整備の概要

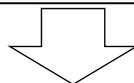
趣旨

障害の状態や発達の段階等に応じて iPad を活用することにより、学習上又は生活上の困難をサポートし、学習指導の効果を高める。

- 通級指導教室に学習支援の教具として iPad を整備する。(H25.6 整備済)
    - ・きこえとことばの教室(言語障害、難聴)・・・3教室(1教室あたり2台)
    - ・セルフサポート教室(自閉症、情緒障害、LD、ADHD)・・・9教室1教室あたり3台
  - 全ての特別支援学級に学習支援の教具として iPad を整備(H26・27年度整備)
    - ・小学校:45学級に対して87台整備(1学級あたり約2台)
    - ・中学校:20学級に対して40台整備(1学級あたり2台)
- ※平成28年度は学級増に対する機器の整備と故障した機器の修繕

## 2 活用の効果

- 視覚的に分かりやすく、直感的に操作できる。
- アプリと呼ばれるソフトウェアが豊富であり、個に応じた多様な学びを実現できる。
- 移動性・記録性に優れ、学習の結果や様子を目前で提示したり、繰り返し利用したりすることで、自己評価の機会が増える。その結果、児童生徒の主体的な学びを促すことができる。



### 【きこえとことばの教室での活用事例】

- ・絵や写真で表示されているものの名前や入力した文字を音声で出力できるアプリを活用し、発声・発音の練習をしたり、コミュニケーションを円滑に図ったりする。
- ・自分の話し方を動画撮影し、その場で口の形や声を確認する。

### 【セルフサポート教室での活用事例】

- ・ドリル型アプリを活用して、計算練習をする。
- ・画面上での描画アプリを活用し、指先の微妙なコントロールの訓練をする。

### 【特別支援学級での活用事例】

- ・板書等を撮影し、記録しておくことで、ノート筆記の補完をすることができる。
- ・書字トレーニングのアプリを活用し、ひらがなや漢字、英単語など、興味を持続しながら練習する。

※通級指導教室担当教員の専門性を生かした iPad の活用を図るため、ICT支援員(iサポートスタッフ)を1人、特別支援教育事業費で雇用し、各校を巡回しながら、効果的な運用をサポートしている。

## 3 活用に関するアンケート結果

- 週2～3回または1日に1回以上活用している学級が多く、その効果については、ほぼ全ての学級において「大変効果がある」「効果がある」という回答であった。
- 特に学習への興味・関心を高めることや生徒の集中力を高めるために効果があるとの回答が多く見られ、集中力を持続することの難しい特別支援学級の生徒に対し、大きな効果が見られた。
- 約7割の教員が学習指導を効率的に行えるようになったと回答しており、iPadを使うことで、今まで教えにくかったことを、よりわかりやすく指導することができるようになった。